

寄付者御礼

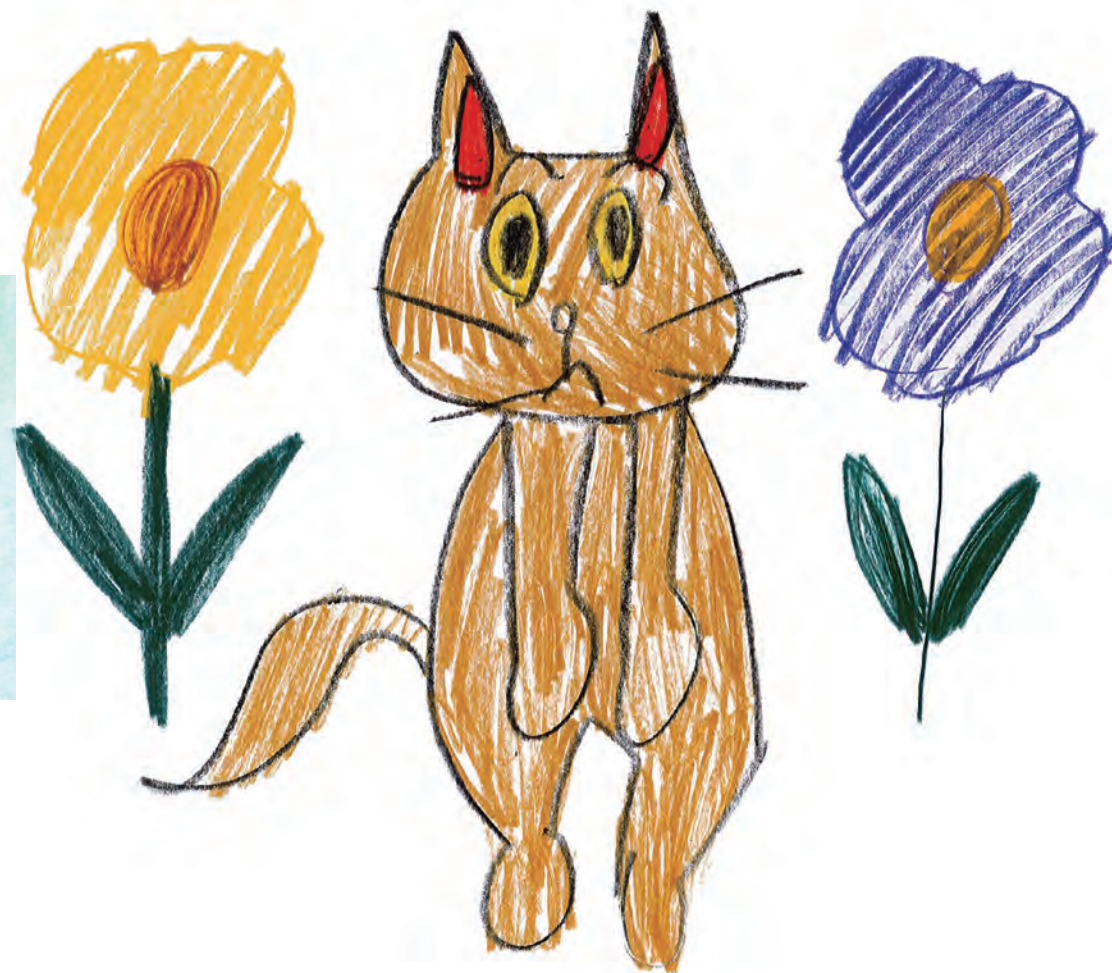
いぶきファミリー会費を含みます

いぶきはともに
向き合い続けます
IBUKI
○○

vol.211
いぶきファミリー
会報誌

2023
めぶき

夢よ もっと ひろがれ



kinpa ginpa
金波 銀波

no.3

はやしもりお

無認可の共同作業所時代から、
いぶきで働いていました。
[金波銀波]は、高校時代、学校新聞に
書いていたコラムの名称です。いぶきの
行く先が、穏やかな航海であるように祈りを込めて!

『春眠晩を覚えず』と言いますが異常気象のせいで、汗ばんだり寒気を感じてしまいうような気候が続いています。
東海地方でも観測史上最も早い開花と報じられていますが、昔の感覚では桜と入学式がセットであって、もう少しあたたかい気候に似あう花の印象が強いような感じがします。別に桜はそんなことは関わりなく、開花の気温になれば自然の摂理で花をつけるのでしょう。
2月2日に超早咲きで有名な「奄美の桜」、3月2日に伊豆の「河津桜」を見てきましたが、いずれも気温が低くダウンジャケットを着込んでの観桜でした。さらにこの早咲き桜の特質として、おびただし本数の桜の木、枝につく密度の高い桜花の塊、ボタンの赤い花に近い鮮やかな色の花弁といった、なかなか自己主張の強い様相を呈しています。
このような全国の人口に膾炙されている桜もよいのですが、過去の歌人たちが詠んだ心象風景として桜の情景は、このような鮮やかなものではなく、薄色の花弁と散りゆく桜に「もののあわれ」の情を込めたものであったように感じます。

編集委員
です

わたしたちがつくっています



藤澤秀人 初瀬尾久美子 池田光巳 藤澤亮太 川瀬悟 山本昇平 山本友美 北川雄史 森洋三

ご感想とふちっこメンバーズ
投稿募集!

みなさまのご意見や感想、みんなの掲示板
『ふちメン』への投稿お待ちしております。

夢よもっとひろがれ vol.211 めぶき
2023年4月発行
発行・編集: 社会福祉法人いぶき福祉会
〒502-0907 岐阜市島新町5番9号
TEL: 058-233-7445
メール: ibuki.m@ibuki-komado.com
法人サイト: <https://ibuki-komado.com>



ご感想投稿

法人ホームページ

ネットショップ

もくじ

- 3 はじめに
- 4-6 仲間のすがた
- 7 連載:恩田聖敬が愛を語る
- 8-9 わたしと息子といぶきと
- 10-11 いぶきのつながりストーリー:防災デー
- 12-13 特集:岐阜県美術館〜ながラー × いぶき福社会
- 14 活動報告:ハレバレごはん
- 15 情報掲示板
- 16 寄付者御礼・金波銀波

★紙面のフチの小さな枠、みんなのスペース『ふちっこメンバーズ』は、読者のみなさまよりいただいた投稿を掲載しています。(投稿は、裏面のQRより)

作者の紹介

○表紙のタイトル:白木祐さん

○表紙のイラスト:老田晴香さん



題:ねこちゃん

はじめに

いぶきの商品の詰合せを定期的にお届けしている「定期購入tabita(たびた)便」毎回なかまの絵や言葉、スタッフのメッセージが思い思いに書き込まれた寄せ書きみたいなポストカードを添えてお届けしています。

7月から月に一度開催してきた「にっこりえんがわマルシェ」いつも遊びにくる子どもたちを名前と呼べるようになってきて、マルシェがない日に、手を振りあったりもしています。これっきりじゃないこと。次があること。明日があること。

「またね」があることに、私たちは安心と希望を持ち続けています。

この会報を手にしてくださるいぶきファミリーのみなさんと、今年度もそんな風景をたくさん描きたいと思います。

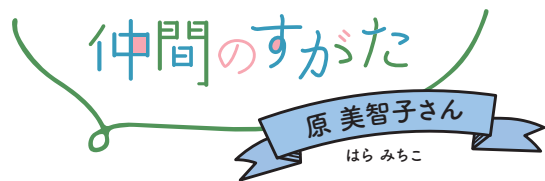
法人本部 北川 雄史



みんなの
スペース
メンバーズ



「川瀬/岐阜市」最近「今日から僕もクッキング」という本を見ながら息子と一緒に食事を作るのが楽しいです。マンガ風で分かりやすく息子も楽しそう。娘は「パパとりんくんのハンバーグ美味しい!」と言ってくれほっこりします。



西部事業部 星場 真希

大好きな人と暮らしたい



にっこりえんがわマルシェをひらいている日光町の家で。みなさんもぜひいらしてください。



仕事は日々のやりがいです！

にっこりえんがわマルシェ「にじいるマルシェ」にて。

今回のタイトルは以前に原さんが仲間新聞に寄せた一文です。目にした時、「それはすうだよーね！」と率直に納得したのを覚えています。私は、彼女がグループホームで暮らし始めて2年目のときに一緒に過ごすなかで、たくさんの話をしました。時には「今日は横(幕)さん(当時の担当職員)が遅退するから行きたくない」など、日中活動の不安や不満が抑えきれないことがあり、ゆっくりと気持ちを聴きながら心の整理を手伝う日々でした。揺れる感情から「それだけ悲しい」ということなのだろう、「それだけ好き」なんだと彼女の想いをその時々で感じてきました。普段の話しぶりからも横幕さんへの気持ちがにじみ出ており、気持ちを支えてくれている大切な存在なのだな。そして、そんな人がいてくれるからがんばれるのだなと感じていました。「支えてくれる人がいるからがんばれる、がんばるから見てほしい」そんな気持ちもとてもよくわかります。

そんな原さんとは縁があるらしく、現在は日中活動するグループ(日光町の家)の担当となり、再び一緒に過ごしています。

今の仕事は以前とは変わっていますが、原さんの丁寧な仕事ぶりからは、横幕さんとともに一生懸命に向き合ってきたことが感じられ、今の姿はその時があったからこそなのだと感じます。仕事では頼れる人と一緒にがんばり、ホームに帰ったらゆっくりと体を休め、自宅では気持ちを受け入れてもらいつつ、外出などで思いっきり楽しむことでバランスを取る。それが今までの原さんの気持ちを整える大切な流れでした。

そんな原さんに大きな変化を与えたのはコロナでした。それまでは休日にボウリングをしたり、柳ヶ瀬を歩いたりするのが楽しみでしたが、コロナによる緊張の高まりとともに外出制限がかかりました。いぶき以外の人との関わりがなくなり訪問者にも気を張るようになって、ふさぎ込むことや、感情の整理が難しい場面が増えていきました。そんな中で地域との関わりやつながりをもう一度作りあげるために始まったのが「にっこりえんがわマルシェ」でした。事前の話合いでは、みんな楽しんでながらマルシェを行ってみたいことを説明したのですが、実際に

みんなの
スペース
メンバーズ



《ねないこだれた〜岐阜市》寝たふり作戦でも走り回ってなかなか寝ない娘。最近しなぶしゆが大好きなので歌う作戦決行歌い出したらタリと止まりこらに近づいてきた！そのままこちらで寝てくれた！作戦成功！……かと思いきや歌に合わせ踊り出したッ！失敗だ！撤収撤収！！目を閉じる。うわ！やめてくれ！口を無理やり開けようとするな！



一緒にお絵描きした、あの子どうしてるかな? 想えることも幸せの一つです

マルシェでは、ねこの約束ポップアップ店での販売も担当しています

心のバリアフリー ナビゲーター 恩田聖敬が 愛を語る!

vol.9 共助愛



恩田聖敬(おんださとし)1978年生まれ。
岐阜県高富町出身。京都大学大学院航空宇宙
工学専攻修了。Jリーグ・FC岐阜の社長に35
歳で就任。現場主義を掲げチーム再建に尽力。
就任と同時期にALS発症、2015年末に辞任。
翌年、『ALSでも自分らしく生きる』をモットーに
(株)まんまる笑店を設立。講演、研修、執筆等を
全国で行う。2018年8月に、気管切開をして
人工呼吸器ユーザーとなる。2児の父。
2022年日本ALS協会会長就任。



BLOG



FB

準備が始まると「なぜここでやるの? コロナに感染したらどうするの?」と不安を抑えきれなくなりました。それでも、ここが誰もが気軽に立ち寄れる場所にしたいということを丁寧に説明しながら、原さんの不安も当然のことと受け止め寄り添ってきました。

対話を重ねていくうちに、「みんなが楽しめるマルシェにする」ことを公約に「仲間の会」の会長に立候補したのです。そして見事当選したのを皮切りに、少しずつ気持ち向けられるようになりました。

7月のマルシェで『カブトムシふれあい体験』を企画すると「子どもたちが来るから!」とすすんで準備をして、当日、カブトムシを前にした子どもたちの嬉しそうな表情に頬を緩ます姿がみられました。その後も回を重ねるごとに表情が明るくなり、今では準備も積極的でやりがいを感じているようです。

小さなマルシェを定期的に開いていると、顔なじみの人ができて、マルシェの日以外にも立ち寄ってくれる人も増えてきました。原さんは、そんな人たちに会えることが楽しみで張り合いになり、以前より

新しいことにも積極的に取り組むようになったように思います。原さんと生活を共にしていると「頼ることも頼られることも大切なこと」で、誰かを迎えるため張り切ったり、様々な人との出会いや自分の気働きで喜んでもらえたり、「またね!」と言える次があることが原さんをやわらかく支えているように感じます。

今の現状を例えると、原さんを中心に周りをバウムクーヘンのように様々な人が層を重ねながら包んでいるように感じます。そんな支えがあるから彼女の生活に安心と張りが出て、その時々を気力を生み出していると思います。

「好きな人との暮らし」は、自分のことを理解してくれる人がいて、趣味などの話が気兼ねなくできる人がいて、不安に寄り添ってくれる人がいて、そして、新しく出会う人と楽しい時を過ごせる場所がある。この層を重ねながら豊かさが増していくのかなと思ったりします。

大好きな人にバウムクーヘンのように囲まれて、『張りや潤い、豊かさ、深み』が生まれて幸せな気持ちで居られる瞬間が増えるといいなと思っています。



1月17日で阪神・淡路大震災から28年、3月11日で東日本大震災から12年となりました。南海トラフもいつ起こるかわかりません。われわれ人工呼吸器ユーザーにとっては災害は命に関わる恐怖です。もちろん健常者にとってもそれは同じですが、われわれは停電→人工呼吸器停止→窒息死となります。

先日コロナに感染して隔離入院しましたが、病院に行くために救急隊が防護服をまとって来ました。ところが人工呼吸器の私を見て救急隊はどうすればいいかわからない様子でした。自助、共助、公助という言葉があります。私のような重度の障害者が地域で生活するには自助だけでは限界があります。必ず共助と公助が必要です。しかし先ほどの救急隊のように助けたくても動けないケースが多くあります。

私の近所の皆様は私が住んでいることをわかっています。挨拶をしてくれたり、決して私を腫れもののように扱いはしません。これは非常にありがたい話です。私は地域で生活することを認められています。まずはそこからではないでしょうか。ALSも他の病気も障害者の持つあらゆる多様性を認めて、一緒に生きることを許容することだと思います。それにはコミュニケーションの機会がある

と助かります。何を助けてほしいのか、どんな助けは必要なのか、これを知っているだけで共助の形は大きく変わります。またわれわれ障害者は、病気というある意味健常者には想像できない貴重な経験をしています。私もALSになって人生観が変わる経験をしました。そんな両者が会話することでお互いに得るものはものすごくあると思います。人は誰でもいつか老いて動けなくなるのだから。

われわれは全ての人が同じ人間です。ただ得手不得手なものが違い、人生の経験値が違うだけです。そのことを理解するだけで地域は間違いなく住みやすくなります。得意なもの苦手なものを補完し合うのが本当の共助だと思います。障害者は決して守られるだけの存在ではありません。時として障害者の経験が健常者を救うこともあります。われわれは分かり合う必要があるのです。

これから岐阜のような地方都市が生き残っていくにはまさに共助だと思います。よく誰も取り残さない社会と言いますが、これには人々の「無関心」を取り除く必要があります。見た目などで障害者を敬遠しないで近づいてみてください。必ず気づきがあります。共に生きやすい社会を創りましょう。岐阜から始めましょう。

みんなの
スペース
メンバーズ



《Zousan/岐阜市》ねこのために、自動給餌機を買った。でも動作確認やねこに倒されないための時間のたびに自動給餌機の世話をしている。自動〇〇機はいつもうまくいかない。歴史は繰り返す。

※ シリーズ ※ わたしと息子といぶきと

いぶきに通う仲間の親さんの手記。わが子の生い立ち、
これまでのことを振り返って、エピソードや自身の想いを綴っていただきます。

藤井 泰文（藤井隆之さん父）

隆之は、結婚して4年目、子どもを諦めていたわたしたち夫婦の長男として、平成7年3月25日雪の舞う寒い日に誕生しました。1歳までは、寝返り・ハイハイ・つかまり立ちと順調に育っていましたが、1歳半健診で発達の遅れを指摘され、長良医療センターを受診。自閉症・発達障害と診断されました。わたしたちには、青天の霹靂でした。



1歳2か月。ニコニコ笑顔が素敵です

幼少期は、長良医療センター・希望が丘こども医療福祉センター・岐阜大学の故柚木先生の教室や地元のことばの教室に通い、育成会や音楽療法に参加しました。いまま隆之の障害を受け入れ、なにをしてあげられるのか模索中です。隆之が5歳のとき、妻が弟たちの育児に追



ドライブが好きなので、家族で色々なところに出かけました

われ目を離した隙に家を飛び出し、行方不明に。家族、近所の人たちと一生懸命に搜索していると3時間後くらいに警察から連絡があり無事発見。なんでも家から3キロ以上離れた道の真ん中を一人で裸足のままで歩いている隆之をトラックの運転手さんが発見してくださり、話しかけてもなにも答えないので近くにあった第二いぶきに預け保護されたとのこと。13年後に、学校を卒業して第二いぶきに通所しているいま、なんだか隆之といぶきの不思議な縁を感じます。

いまま隆之は28歳。2歳から保育園、支援学校へと通い、体は小さく、多動ながらも

人懐っこくてニコニコの笑顔で昔はかわいかったのに、いまはその面影すらないと妻は言いますが、私にはかわいくて仕方ないです。



中学部の入学式

中学部になったとき、同級生がいきなり20数名になり、小学部での先生と同級生2人の学校生活が激変しました。本来大人数が苦手な隆之にとっては、相当なストレスになり学校を嫌いに。そのころから、意思表示のできないストレスから小さな発作（てんかん）がおきるようになりました。結局、入学者が少ない新設の支援学校に転校し、なんとか中学部、高等部を無事卒業することができました。てんかん発作は、高等部時代にも同級生が多くなったことでストレスでの発作、救急搬送もありましたが軽いものでした。しかし5年前、夜8時ごろ発作がおき救急車での搬送中に、呼吸停止、意識レベルの低下でそのままICU（集中治療室）へ。医師からは「このまま自発呼吸が戻らなければ覚悟してください、今晚が山です」と言われ、弟たちも県



高等部卒業式

外から駆けつけ、まるでテレビドラマのワンシーンのようでした。幸いにも翌日には自発呼吸が戻りICUで一週間、一般病棟にうつり二週間後には退院することができました。その後、大きな発作もなく現在にいたります。

隆之に対する心ない言葉や行為があっても、隆之は純粋で人が大好きです。人が好きということは生きていくうえで、とても大事なことだと思います。これからも、いろいろな人と出会い、仲間をつくり、その仲間たちと楽しいことを見つけて世界を広げていってくれることを、家族で応援していきたいと思います。



いぶきでの作業風景
ミキサーに新聞紙を入れて張り子の土台をつくります

みんなの
スペース
メンバーズ



《シホノ岐阜市》
実家に帰ったとき、母の形見のひな人形を見ることができてうれしかった。お姉ちゃん、ありがとう。



岐阜県美術館を拠点に、アートと人と地域を結ぶ活動を行っておられるアートコミュニケーター「～ながラー」のみなさんとの協働。2年目の今年は、より実践的な取り組みになりました。「静かに鑑賞ができないから…」「車椅子や歩行が困難な仲間にはハードルが高い」など、職員へのアンケートには、さまざまな理由から障害がある仲間には足を運びにくい場所だという声がありました。でも本来、美術館は誰にでも開放されている場所。「どうしたら障害のある人が美術館に行きやすくなるか？どうすればより楽しめるか？」ということと一緒に考えました。2022年秋から互いに理解を深める対話をはじめ、11月にはいぶきを見学。12月には仲間たちが岐阜県美術館での鑑賞を楽しんだり、館内で好きなことをしたりして過ごしました。今後も障害福祉の理解を地域に広げる機会を大切にしていきたいと考えています。(山本友美)



障害のある人が美術館をもっと楽しめるようにするには？

北部事業部 大堀愛子

鑑賞会当日、私は一足先に美術館に入り仲間たちの到着を「～ながラー」のみなさんと待っていました。雨混じりの天気で「外大丈夫？濡れずに入ってもらえるかなあ」そんなやりとりも聞こえる中、～ながラーのみなさんにも私の表情にもどこか緊張がにじんでいました。当日までの事前ゼミで私からお伝えしたことは「仲間は人が好きで、仲良くなりたい、つながりたいと思っている人が多い」「障害のあるなしに関係なく、感じることや思うことが異なるのは同じなので肩の力を抜いて一緒に過ごしてほしい」という二点でした。障害のある人と関わったことがない方が多く、具体的なイメージの持ちにくさや不安もある中で、みなさんが緊張されるのも当然のことでした。それでも、みなさんはどうしたら仲間たちが心地よい時間を過ごせるか、丁寧に考えてくださいました。準備されたコミュニケーションシートのたくさんの選択肢の中には、行きたいところややりたいことの他に「休

憩」という「何もしなくてもいい」という選択も用意されていました。「どんな過ごし方をしてもいいんだよ」というメッセージには、仲間たちの気持ちを第一にしたいというみなさんの姿勢を感じることができ、うれしく思いました。車が到着し、いよいよ本番！と緊張感が増す中、仲間たちもまた緊張した表情で車を降りてきました。そんな雰囲気を一掃してくれたのが藤田さんでした。「おはよう！佳美ちゃんやよ！」とまるで旧知の仲のように握手やハグをして、にこやかに館内へと入っていきます。それを自然と受け入れ、笑顔



「どんな色がいいかな？」塗り絵を楽しむ鷺見さんと藤田さん

でこたえるみなさんの姿に、漠然と「今日は大丈夫だな」と思いました。実際に、一緒に過ごす一時間はそれぞれに充実したものになりました。大きな絵画の前で静かに見入る人、館内探検を楽しむ人、お絵かきやおしゃべりを楽しむ人、自分で過ごし方を選び、自分のペースで楽しみました。岩城さんは館内をひと回りしたあと「休憩」を選び、～ながラーのよりこさんに最近ハマっている曲の歌詞について紹介をしました。



よりこさんと岩城さん。「私の好きな歌は…」

一緒に紙に歌詞を書き、笑いあふたりを見てつられ笑いをするほど、あたたかい空気でした。「寛容であることとはこんな風に自然体で過ごすことなのかな」と思いました。予想以上にみんなが充たされた時間を過ごすことができ、帰りの車内もいぶきに普段あまり行けないところに行くと、つい私

はあれもこれもと体験してほしくなってしまうのですが、今回の取り組みからどんな過ごし方・楽しみ方をするかは仲間に委ねなくてはいけないのだと気付かせてもらいました。こうした「～しなくてはならない」「～だといのに」という職員の思いはあらゆる場面で、仲間の活動に無意識のうちに制限をかけているのだと思います。自分の決めつけを取り払うことで、そこから大きく変わることを実感した一日でした。今後もいろんなことを一緒にできたいと思います。また、この活動が他の多様な立場にある人たちに広がると嬉しいです。そして、いぶきももっと地域に開かれた場所となり、気軽に集える場所になるといいな！そんな景色を想像するだけでわくわくします。“これから”を楽しみにできる大切なご縁がまたひとつ増えた取り組みとなりました。後日、仲間と美術館へ納品にでかけました。様々な心配からこれまでは職員中心で行ってきた納品。私たちの不安をよそに、ちゃんと張り子の数を数えて落ち着いて納品できました。これからは、もっといろんなことに挑戦し、仲間たちの新しい姿に出会っていきたいという期待がもてました。みなさんとの素敵な機会と出会いに感謝したいと思います。ありがとうございました。

みんなのスペース
メチゅーんバーズ



《ともしけ／岐阜市》就寝前の読書が、数年前から全く進まなくなった。即寝落ち…歳のせいかな。そこで読書タイムはお昼休憩に。最近読んでるのは、原田マハ『独立記念日』。程よい短編集で、一日ひとつ読み終える。それぞれの物語に胸を打つものがあり、気持ちが解れます。あなたのおすすりも教えてください。



2020年4月に新設したパストラルいぶきD棟。福祉避難所（通称防災室）を併設したことで、法人としても防災活動に力を入れるきっかけになりました。『防災デー』は仲間や職員、地域の方も一緒に防災意識の向上や福祉避難所の周知を目的に昨年度から企画した行事です。昨年度はコロナの影響で施設内での取り組みでしたが、今年度は防災室を開放して地域の方にも足を運んでいただきました。



地域の人と一緒に楽しく防災意識を高めること。



北部事業部 吉田直紀

2月23日（木）に防災デーを開催しました。コロナの影響で二度延期していたので仲間たちがイメージをもって参加することができるか不安でしたが、当日防災室に保護者の方や西部の仲間、地域の方々総勢80名の方にご参加いただき楽しい雰囲気で開催することができました。



オンライン中継の様子。気分はキャスター

第二いぶきの仲間代表の柴さんは防災室とオンラインでつないで生中継の司会をしました。事前にリハーサルをしていたのでスムーズに進めながら、各グループの防災の取り組みの紹介や防災食のアルファ米を使用したカレーライスやチャーハンの試食をしました。仲間役員の安藤さん、高瀬さん、玉木さんは会場に足を運んでくださった方を案内する役割を担いました。会場には備蓄品の展示や実際に避難したときをイメージした体験コー

ナー、仲間がつくっている商品の販売、各チームごとの防災の取り組みを視聴できるスペースを用意しました。また、来場された方へ先着100名様にプレゼント（保存水、マスク、高糖度ジャム、フィルムせっけん）をお渡ししました。

仲間役員のみなさんはそれぞれ役割を担いながら防災デーを盛り上げます。玉木さんは自分たちの商品を紹介しました。



満面の笑みではこの紹介をする玉木さん

いつもと違う場所では表情が硬くなることが多いですが、他の仲間役員の存在が心強かったようで堂々とした姿で「はりこ」や「クラッカー」を手にとって紹介することができました。高瀬さんは来場者のみなさんにプレゼントを手渡し。「ありがとうございました」「また来てください



プレゼントを笑顔で手渡しする高瀬さん

ね」と笑顔で挨拶をし、来ていただいた方からも笑顔がこぼれる瞬間でした。安藤さんは実際に避難することをイメージした体験コーナーで、ダンボールベッド体験をしました。少し緊張した様子でしたが仰向けになると気持ちよかったのか



ダンボールベッドを体験。気持ちいい!!

両手をのばしてリラックス、おもわずひと休みしてしまいそうなくらいでした。仲間にとっても、実際に体験することでより実感がわいてよかったと思います。また、来場者の方にもダンボールベッド

は30cmの高さがあり、立ち上がりやすいことをお伝えすると、「ちゃんと工夫されているんだね」「立ち上がりやすいことは大事だね」と地域の方とやりとりすることができました。また、「今まで大きな災害がおきたことがないから、事前に話しあうことは大切だね」と防災についてともに考える時間ができました。同じ地域で暮らすからこそ一緒に考えられることは大事なことだなと感じました。今後もこのような機会をつくり、地域の方との助けあいにつなげていければと思います。

今回の防災デーをとおして、福祉避難所のことや防災のことを知っていただける機会になったと思います。いざという時のために、お互いの顔がみえる関係づくりやいぶきに福祉避難所があることが、安心に繋がるようにしていきたいです。



防災デーの看板をみんなでつくりました



『ハレバレごはん』で みんなハレバレ

西部事業部 竹腰龍太

生活に困っている家庭や、ひとり親の家庭にお弁当を届けて元気になってもらおうという取り組み「ハレバレごはん」。3年目の今回は、岐阜県孤独・孤立対策官民連携事業の助成を受けて実施しました。いぶきの自然栽培のお野菜とお米をつかったお弁当をKouzo Gifuさんに作ってもらい、1月と2月に4回に分けて合計205食をお届けしました。ごんのしまカンパニーでは自然栽培の農作物を作っています。ハレバレごはんのために冬の畑でとれた大根、カブ、里芋、サツマイモなどを用意し、夏にとれたお米は大切に取っておきました。



丹羽さんと一緒にお届け

最初の2回はフードバンクぎふ大垣本部さん、キッズスクエア瑞穂さん、フードバンクぎふ笠松支部さんへお届けしました。1回目には丹羽さんと一緒に、お弁当をお渡ししました。お弁当を入れる新聞紙のバッグ(ごんちゃんバッグ)もこの日のためにみんなで作



お弁当を丁寧に手渡しする桜井さん

り、ごんちゃんバッグを渡すと「すごい!」とみなさんにとても喜んでくれました。大垣本部の船田さんからは、お渡しした92歳の高齢のご夫婦の方が、お弁当を開けて「これは高級なお弁当やなあ」と喜んでいただいたというお話を聞くことができました。最後の2回は、ひとり親Cheersさんへお届けしました。2月8日には宮脇さんが中日新聞の取材を受け、自分たちが作ったごんちゃんバッグを嬉しそうに記者の方に見せていました。今年から農業チームと一緒に仕事を始めた桜井さんは、お渡しした方に「ありがとうございます」と言われると飛び跳ねて喜んでいました。ひとり親Cheersの岩田さんからは、「いつもは野菜を食べない子どもがおいしいおいしいと食べてくれた!」など、とても嬉しい感想がもらえたと教えていただきました。丹精込めて作ったお野菜を、素材の味を活かしたおいしいお弁当にいただき、手作りバッグで必要とされている方にお渡しする。たくさんのひとの想いをたっぷり詰め込んで、地元を元氣する。そんな「ハレバレごはん」を来年も取り組みたいです。



新聞紙をリユースした「ごんちゃんバッグ」とみなさんにお配りした彩り豊かなお弁当

情報掲示板



01

いぶきファミリー会員(個人・法人)募集と、更新のおねがい

寄付や会費がいぶきの推進力になります。いぶきの活動を継続的に応援していただけませんか?

寄付・遺贈寄付のご相談は、いぶき福祉会まで 058-233-7445

種類	応援のカたち	お届け	お申込み方法
個人	共感やアクションで応援(会費はいただきません)	会報誌	お申込みはこちらから⇒
	月250円(年3,000円)	会報誌・年次報告書	①月払いはこちらから⇒
	月500円(年6,000円)		
法人	月1,000円(年12,000円) 月3,000円(年36,000円) 月5,000円(年60,000円) 月10,000円(年120,000円)	会報誌 年次報告書 オリジナル商品	②年払いの方は、郵便振替か銀行口座引き落としになります。ご希望の方はご一報ください。

税額控除対象法人となりました

このたび社会福祉法人いぶき福祉会は2023年3月16日に税額控除対象法人になりました。これにともない、同日以降のいぶき福祉会へのご寄付(いぶきファミリー会費も寄付と同様の扱いとなります)は、税制上の優遇措置として、所得控除と税額控除を選択できるようになります。なお、控除を受けるためには確定申告が必要です。所得などご本人の状況により異なりますので、詳しくは最寄りの税務署へお問い合わせください。

02

30周年記念プロジェクトがはじまります

2024年7月8日、いぶき福祉会は法人設立30周年を迎えます。20周年からの10年間で、いぶきに集う人たちは大きくひろがり、関わりも多様になりました。だからこそ、この節目に大切に守り継ぎたいことや、未来に向けての対話を重ねたい。30周年記念のプロジェクトにはそんな思いをこめていきます。いぶき福祉会30歳の誕生日まで一年余り。誕生イベントとともに、たくさんのプレ企画を仲間と一緒に作っていきます。つましくて温かくて心ときめく、いぶきらしいものにしたいと思います。ご案内や活動の報告はHP「いぶきの小窓」や「えんがわスケッチ」、メールマガジンで随時お届けしてまいりますので、楽しみにいただければ幸いです。

スケジュール

2023年6月～2024年6月
…30周年記念プレ企画
2024年6月…30周年記念誌の発行
2024年7月…30周年記念式典、
いぶき展(仮称)開催

03

わが子の幸せをたくす エンディングノートプロジェクト

ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングとして2021年10月11日～2022年1月8日に寄付募集をし226名より4,044,000円の支援をいただきました。今回の取り組みを動画と冊子にまとめました。報告冊子のお取り寄せや取り組みの問い合わせなどはいぶき福祉会まで。(会報誌送付の方は同封しております)



←プロジェクト報告書 A4 8ページ 下記サイトよりダウンロードもしていただけます。



動画はこちら 冊子はこちら

みんなの
スペース
メンバーズ



《ごんちゃん/岐阜市》焼肉と言えはカルビ!! いやタン?違います。最近初めて知ったえんとつこれに私は夢中
であります。A5ランクのお肉よりも魅力的!!なんといつも画けたえんがわがたまにありません。あ、このえんとつビル
が進む…進む…悪玉コレステロール値が上がる…!! 何も怖くない。多分きっと。